[1] 第9号 広報とちお 昭和32年6月10日 発行	昭和32年6月10日発行 広報と
	会は なように なように ななように ななように なながく上がっいいすいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい
な末子は十補路設は、要 や九西しがネナ臨 ばな年 一時市 から市 から市 なた第国万助新備、要 事子谷て含ル万時こなられと度 か方分二まむ円就のられとに度 から市 かっ自計庫二三費、尾丁 処円校百れ見員、(労線な酸なをとり) の助で、上万学の報な築口、事の策計も会につきまし、 必要とあった名子建築、 処理する連子円拓と費の、いり」は管六比て内。しり、ばれ。 な、が度ひれ四地道送容 承。百制と円ン九、れから $\Delta\Delta$	よう。 はの間に生れた者 での間に生れた者 での間に生れた者 いることをきめて、 なってないにしたい日にいいれたのの にとして、 なってす。 しよう。 に したいい に したい したい したい したい したい したい したい したい
	た交付保険額の たか付金を交付します。 ことになかするります。 なのであります。 ためけるの しのたれする たまり着でたり なのであります。 ためするの したかけるの したかけるの したかけるの したかけるの したかける たたします。 たたします。 たたり なたかける たたします。 たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたかける たたり なたか たたり なたか たたり なたか たたり なたか たたり なたか たたり なたか たたり なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なたか たた なた なた なた なた たた なた なた なた なた
栃事百の円額「■入▼ 「 」 」 「 」 」 」 「 」 」 」 」 」 」 」 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	をし、たみの をし、たそのの し、た た のの し、た た のの し、た た のの た の の が 少 っ た た の の た の の た の の が ち 、 と 、 た の の ん が ま 、 た の の ん が ま 、 た の の た の が か ら が ま た の の が か ら が ま た の の が か ら が ま た で う に い ま た で う に い ま で 、 た し 、 た し 、 た し 、 の た し ま 、 た し 、 し し し 、 し し し し 、 し し し し し 、 し し し 、 し し し 、 、 、 、 、 し し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

. .

38153

ちお

まらにうなが扱いにのオマルにのオマルにのオマルにのオマルにのオマルにのオマルにのオマルにのオマル	農業 パラチオン剤の危害防
	上 てください。 てください。
	王士約一、二〇〇名二等海士約三八
消早反した畜れ Tりて剤お > ル睡 防 失い対製 少にど 製のみ特と ※ けん で 止 ま 効効は 。す 効は 類 し 殺 思 虫 ん 、 る す 力き 、 る 力 、 な し 出 む が や 毒 り 短 は D 性 長き 。に す よ 逆 剤 () し た し た し き は い で 使 石 /) の 41 読	るばかりでなく、伝染病の ク等の増量剤、庭は毎日の生活を明るくす ◆粉剤は、有り備生的なまち、清潔な家 くすりの形
まあや以長効噴溶分劣液なま散粉面で するす上続力霧かをり剤いた布器を散 。ないのきも器し石まにが、すでぬ布	剤を加えたもの 有効成分にタル

[3]	(第三種郵便物認可)	広報	とち	a	昭和32年6月10日発行
	渡風 勇町「ハ平誠」 辺富安吉 ^し 土ッ 治 :俊士井 笠々 「	龍田市は百四十二であ	たら区被 もの長表	式表納受年さ日 は彰入け十れる	
「韮下倉リ 十	「 沢作 川 (東 市 前 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎 市 郎	后 原 着 一 〔 代		「下塩」石丸幸平 飯浜利子 「二日町」 、浜清 〔熊袋〕鈴木 勝沼亀一郎 〔二9町〕 勝沼作蔵 〔 「明戸〕酒井ョ	
一世帯当りの平均年額はほとが計上されたためであつて、る中野侯、半蔵金両地区の分ております。これは合併によし百六十万一千円増額になつし国民健康保険税」前年に比	です。 です。 です。 です。 です。 たを明らかに定営されているもの たを明らかに定営されているこ しているもの たを明らかに示しているもの	算度	多田タカ 〔西野侯〕稲葉進 西谷地区 〔中〕千野淳一 進辺寅松 小林貞吉	赤マ蔵佐荷 末キ 藤頃 <u></u> 栄 「襄 」	春日 本間鉄太郎 三 大 崎 仙 一 郎 大 崎 仙 一 郎 大 崎 御 井 田 熊 一 郎 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 来 伝 二 本 間 美 大 郎 美 六 郎 男 田 栄 六 郎 史 田 栄 六 郎 史 田 栄 六 郎 史 田 栄 六 郎 二 来 伝 二 来 伝 二 本 新 一 四 二 来 伝 三 四 二 六 郎 二 二 本 新 一 四 二 六 郎 二 二 本 新 四 二 二 本 町 四 二 二 本 新 二 二 本 町 二 二 本 長 二 二 本 新 四 二 二 来 伝 三 四 二 二 来 伝 三 四 二 二 本 間 三 二 二 本 新 一 二 二 本 前 二 一 二 二 本 前 二 二 本 伝 三 二 二 本 二 一 二 二 本 伝 三 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
お補助のが含まれ。 お 前 助 金 約 二 五 西 石 石 の 内 い た ろ の ち の た の の の た の の の の た の の の の の の の た の の の の の の の の の の の の の	とと、三十二年度補助金の末 、三十二年度補助金の末 とと、三十二年度補助金の末 に国庫補助金】これは国保事 んど変りありません。	書をめくる	松大崎健全治渡辺、著太郎、磯部、窮広(田之口)松井徳、磯部、龍太郎和田市右工門、村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村子・村	款 ① 国民健康保険組 ② 一 部 負 担 幺 ③ 財 産 収 2	本年度予算額 し増減(△甲減) 党 17.001.000 1.601.000 企 6.000 1.000 10.000 0 0
務用品購入費や会議費等が員の職員給、手当、旅費、せん。 しており、旅費、これは、国保せん。 しており、「ない」のは、は、国保は、のでは、「ない」ので、他は前年度と大差あり	六十八万円増になっていた。 たけ、「「「「「「」」 に、「「」」 に、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	かつきましたので、なくても運営できるの上昇等によつて、税険税	一会つ下助	× 繰 入 ≰ ⑦ 繰 越 ≰ ⑧ 雑 収 フ 歳 入 合 計 歳	
などが含まれておりまた、家庭訪問等の諸給与のほかに判別	けすが野路な費が費	費(市役所費)ということに付費と、これに付随した事務なり予算のほとんどが保険給役所費をあわせると九十%と額の六十七%を占め、前記市	るの増加予分は年	③保険給付引 ③保健施設引 ④歴旨普及引 ⑤財 産 引 ×公 債 引 ⑥諸 支 出 会	 ま、497.800 480.100 18.233.000 433.000 435.000 435.000 400.000 400.000<!--</td-->

10

1.20

•,

一、二八六票 の、三〇九票 の、三〇九票 枚 ÷. るわけであります。後の婦人の関心が強く窒まれ特に婦人の投票率が低く、今三六%と予想外の低調でした 選公 挙明 ボ ス 8 谷小 1 = 2 の 1 ミル を授与されました。 よ 1 N 5 事 子 業所 入 選 統 計 調 査 を 実施 木杯が授与されました。 沢)が表彰を受け、表彰状と 原)、元書記佐藤市之丞(金 昭和82年度栃尾市特別会計予算一覧 比較增減 (△印減) 計 別 本年度予算額 숲 公 益 質 屋 地方 産業育成 資金 国民健康保険 伝 染病院 結核病棟 3.063.200 3.287.580 27. 125. 860 2.808.360 3.121.68 3. 121. 680 4.100.000 4. 100. 000 計 40. 698. 320 10. 030. 040

昭和32年6月10日発行

報

広

1 .

国民健康保険税 市町村 民税

六月分)であります

0

期限内にお忘れなく衲税をお願いいたします。

六

月

0

市

税

は

2. 2

とち	お	(第三種郵便物题可)	٢	[2]	
捕牧ととして、「に」県、寺に帰へり役裏都がまて、今者別得票数(敬称略)三六%と予想外の低調でした、効投票数(七、四六六票投)望三一四人であつて、◆	おりでした。 おりでした。 おりでした。 「「「「「「「「「「「」」」」」」」」」、「「」」」」、「」」」、「」」、「」		市長選挙総決質	昭和三十二年五月十二日執行	
時 1 時 1 三〇・七 二〇・七	- - - - - - - - - - - - - -	時間明の 時間明の の		軽委員会 率 計	
六時七六•三五%	第2 第3 第4 第5 第6 第7 第7 第8 第8 第8 第4	受所 8694 ト学校 85.91	81. 71 82. 34 79. 01 90. 12 71. 33 72. 52 58. 77 70. 99 68. 79 62. 91	83.99 83.92 81.42 91·28 76.35 76 70 68.82 75.71 75.93 72.40	
安彰される	第12 栃 烟/ 第13 東不高 第14 天下高 第15 旧之貝 第16 一之貝 第17 軽 北 礼 第18 比 礼 第19 本津川 第20 旧入東	小学校 86.29 小学校 87.87 小学校 89.66 青年会館 89.01 夏支所 82.95 小学校 74.38 小学校 74.38 小学校 74.81 俱楽部 90.57 〔谷亥所 78.18	76. 12 82. 57 82. 25 80. 65 70. 92 60. 87 82. 88 76. 47 74. 19 69. 54 64. 71	81. 10 85. 10 85. 75 84. 46 76. 50 67. 60 82. 74 75. 66 81. 74 73. 73 71. 29	
原)、元書記佐藤市之丞(金らは、委員長平林論左工門(県関係十五人のうち栃尾市か人の表彰を行いました。新潟	第22 栗山沢 第23 旧西4 第24 田之口 第25 森上4 第26 旧中野 第27 新山2 第28 繁曜 4	小学校 78.00 小学校 94.70 谷支所 83.42 公会堂 91.92 小学校 96.12 哭村役場 77.89 公民館 70.31 友学校 95.80 中学校 80.78 分 校 93.33 84.55	64. 71 87. 14 74. 19 82. 47 84. 62 72. 20 73. 20 82. 50 72. 79 84. 48 76. 66	71. 29 90. 81 78. 82 87. 24 90. 34 75. 00 71. 89 89. 12 76. 96 88. 98 80. 36	